

年 組 名前:

早朝特急 定期化へ弾み

通勤・通学、旅行利用者に好感

追跡
2025
やまなし



臨時特急「かいじ70号」に乗り込む乗客

＝JR甲府駅

18日午前5時半ごろ、日の出前で周囲が暗いJR甲府駅の2番線ホームで、厚手のダウンジャケットを着た女性やビジネスバッグを手にしたスーツ姿の男性らが上り臨時特急「かいじ70号」の到着を待っていた。

旅行で橋岡県に行くために利用した中央市下河東の自営業原直人さん(53)は「朝早く出発できることで従来より1時間以上目的地に早く着き、

長く観光を楽しめるのでありがたい。さまざまな場面で便利なので長く続いてほしい」と話し、列車に乗り込んだ。

かいじ70号は、甲府駅を午前5時40分に発車し、午前7時45分に東京駅に到着する。以前のより特急の県内始発は、電王発東京行きかいじ2号で、電王を午前6時58分発、東京午前8時57分着だったため1時間以上早く東京駅に着きやすくなった。

JR東日本八王子支社によると、山梨県内の駅からは1日あたり、定員に対して3割の利用率がある。乗客からは「臨時特急を利用することで、当日の朝に山梨を出ても東京の職場に間に合うので便利」といった声が寄せられているという。

県内では導入後、臨時運行の位置づけとなっていた早朝特急の定期化を求める動きがみられた。山梨、長野両県などをつくる中央東線高速化促進・定時性確保広域期成同盟会は9月、JR東日本などに定期運行化を要望した。県も利用促進策として、早朝特急を利用して県外の大学に通う学生らに、特急券の購入費を補助する方針を決めた。

運行期間は当初6月末までだったが、利用状況が好調だったことを受け、これまでに3回期間を延長。来年2月27日までの継続が決まっている。氏森毅支社長は今年12日に開いた会合で、9～11月の乗客数が4月と比較して1割程度増加していることを説明し、来年3月以降も「運行を継続させていきたい」と意欲を見せた。

支社によると、早朝特急の「かいじ70号」は、東京への通勤・通学の利便性向上を目的に、今春のダイヤ改正で導入され、3月17日に運行が始まった。平日の午前5時40分に甲府駅を発車し、県内は石和温泉、山梨市、塩山、大月、各駅に停車し、午前7時45分に東京駅に到着する。県内で平日早朝の臨時特急が導入されたのは初めて。

(2025年12月22日付 山梨日日新聞 21面)

利用は通勤・通学者に限らず、旅行者の利用も一定数みられるという。担当者は「利用を伸ばしていく余地はまだあると考えている。行政や地域の方々と連携して、かいじ70号の利用促進や定着化を図っていきたい」と話した。

◇ 2025年も残すところあとわずか。今年あつた「こーい」のその後を追う。

＝随時掲載します

問1 通勤、通学、旅行者に好評の臨時特急「かいじ70号」は、

いつから運行が始まり、今までに何回、期間が延長されましたか。

運行開始日: 月 日 延長回数: 回

問2 「かいじ70号」は、甲府駅を何時に発車し、東京駅に何時に到着し、乗車時間は何分ですか。

甲府駅発: 時 分 → 東京駅着: 時 分 乗車時間: 分

問3 山梨県は、早朝特急の利用促進策として、なにをする方針を決めましたか。